**<https://youtu.be/pfte6Ynpe8w?si=vNzMzX-nkRAJ09AA>**

**(Paul Krugman: Professional Journey)**

**(How did you get involved in Economics?)**

Why I went into economics is partly an embarrassing story. I was a huge science fiction fan as a teenager, and I loved the *Foundation* novels of Isaac Asimov, in which a group of social scientists, through their understanding of the laws of human behavior, saved galactic civilization. I wanted to be one of those guys. The closest you can get to that in the world today is economics.

Also, I loved history, but I found that I wasn't feeling satisfied with the history courses. I took a lot of history—about as much as economics when I was an undergrad. But I felt that there wasn't enough real explanation in them. Economics offered a way to think about what happens in the world that really gives you traction on reality. So all that took me into economics.

**(How and when did you get involved in Economics research?)**

Well, I was super lucky as an undergrad because I had the first of a series of mentors: Bill Nordhaus, who was at Yale. I took an undergrad course from him, and he sort of took me under his wing and got me into doing some research at that point on energy issues. Actually, it was a little bit contemporary because the first thing I did was looking at the differences in gasoline consumption among countries. Gas is much more expensive in Europe, they use a lot less of it, and I was off and running. The ability to take a look at some real-world problem and think it through—in terms of a model, in terms of what kind of data you need to really get a handle on how this thing works—that completely hooked me by my senior year in college.

**(Tell us about the research for which you won the Nobel prize.)**

So when I went off to grad school, one of the underlying rules is that whatever it is you thought you were going to work on is not what you end up working on. I thought I was going to do energy, but I found that international trade got me really interested. I researched and wrote about it.

But there was a problem with international trade. If you go back 30 years ago, the theory of international trade was about why countries trade with each other and why they trade the things they do. The theory we had back then really said that countries trade because they're different. You've got a warm climate, I've got a cold climate—I'm going to grow wheat, you're going to grow coffee. There's a lot of that kind of trade in the world.

But a lot of world trade is between countries that look very similar, and they're actually trading stuff that looks very similar too. There's a lot of two-way trade in automobiles between European countries or between the United States and Canada.

The work I did, which ended up with a nice ceremony in Stockholm, was about how to think about that. The story is that it's about the advantages of large-scale production. But to even get there, you have to think about worlds in which you have large companies interacting with each other strategically. So it's all about industrial organization, increasing returns to scale, and international trade. It seems totally natural now, but at the time it was a radical departure in the way people thought about it.

**(How did you find out you had won the Nobel prize?)**

I was actually in Washington, in a hotel room for a meeting about the financial crisis, when a cell phone went off. Some guy with what sounded to me like an obviously fake Swedish accent said, “Hello, this is the Nobel Committee. We’d like to congratulate you.” I didn’t fully believe it—it was 6:30 in the morning—until 7:00, when it actually popped up on the Nobel website. I wasn’t sure it wasn’t a practical joke. I wondered how they had my cell number, and it turned out that a Swedish friend of ours had the number and gave it to them.

**(How do you handle your many responsibilities?)**

It’s partly a question of just knowing what you can do well. Over the decades, I’ve learned what I’m good at and what I’m not. You really don’t want me doing any academic administration—I steer totally clear of that, and that’s good. On the other hand, I’m a very fast writer. If you ask how I do that, the answer is I have no idea. But I am a very fast writer, and that allows me to do a lot of writing in a way that probably a lot of other people couldn’t.

**ポール・クルーグマン：職業人としての歩み**

**（どのように、そしていつ経済学の研究に関わるようになったのですか？）**

なぜ私が経済学の道に進んだ理由は、一部、恥ずかしい話なのですが。  
10代の頃、大のSFファンで、アイザック・アシモフの「ファウンデーション」シリーズが大好きでした。その中では、ええ、社会科学者の一団が、人間行動の法則を理解することで、銀河文明を救うんです。  
私もそういう人になりたかった。そして、ええ、今日の世界でそれに一番近いのが  
経済学なんです。  
うーん、それに歴史も好きだったんですが、歴史の授業には満足感を得られませんでした。  
たくさん歴史の授業を取りました。学部生の時は、経済学と同じくらい歴史の授業を取りました。  
でも、ええ、そこには十分な本当の説明がないと感じたんです。  
そして経済学は、世の中で起こることを考える方法を提供してくれて、現実にしっかり足場を築いているというか、手応えを感じられるものでした。  
そういったこと全てが、私を経済学へと導いたのです。

ええ、学部生の頃、ものすごく幸運でした。というのも、一連のメンター（指導者）のうちの最初の人がいたからです。ビル・ノードハウス、イェール大学にいた人ですが。  
ええ、彼の学部向けの授業を取り、ある種、目をかけてくれて、その時点でエネルギー問題に関する研究をさせてもらえるようになったんです。  
ああ、実はそれは少し今日的でもありました。なぜなら、私が最初にしたことは、  
国々の間のガソリン消費量の違いを調べることだったからです。  
ヨーロッパではガソリンがずっと高く、彼らはそれをずっと少なく使います。そして、私は走り出しました。  
それは本当に、何か現実世界の問題を取り上げて、それを考え抜く、つまり、モデルの観点から考え抜き、この仕組みを本当に把握するにはどんなデータが必要かという観点から考え抜く能力、それが身についたのです。  
それが、ええ、大学の最終学年までには、私はそれに完全に夢中になっていました。

**（ノーベル賞を受賞された研究について教えてください。）**

それで、大学院に進学したとき、もし大学院に行くなら、基本的なルールの一つは、  
自分が取り組もうと思っていたテーマは、最終的に取り組むことにはならない、ということです。  
だから私はエネルギーをやろうと思っていたんですが、国際貿易が非常に興味深いと気づいたのです。そして国際貿易に取り組みました。それについて研究し、執筆しました。そして、うーん、しかし国際貿易には問題がありました。  
30年前に遡ると、ええ、国際貿易の理論というのは、なぜ国々は互いに貿易するのか？なぜ彼らは特定のもの[製品]を貿易するのか？ということです。  
30年前に私たちが持っていた理論は、国々は違うから貿易する、というものでした。  
あなたは温暖な気候で、私は寒冷な気候。私は小麦を育て、あなたはコーヒーを育てる。うーん、まあ、世の中にはそういうものはたくさんあります。ええ、しかし世界の貿易の多くは、非常によく似た国々が互いに貿易しており、実際には非常によく似たもの[製品]を貿易しているのです。  
ヨーロッパ諸国間や、アメリカとカナダの間では、自動車の双方向貿易がたくさんあります。  
ですから、私が行った研究、そして最終的に、ええ、ストックホルムでの素晴らしい式典につながったものは、それについてどう考えるか？どう捉えるか？ということでした。それは、その話というのは、大規模生産の利点についてなのです。  
しかし、そこにたどり着くためにも、ええ、大企業が互いに戦略的に相互作用しているような世界について考えなければなりません。ですから、それは全て、産業組織論、規模に関する収穫逓増、そして国際貿易に関するものなのです。  
今では全く自然に見えるようなものですが、当時は人々がそれについて考えていたやり方からの根本的な逸脱でした。

**（ノーベル賞を受賞したことはどのように知りましたか？）**

実はワシントンにいて、ええ、金融危機に関する会議のためにホテルの部屋にいました。そして携帯電話が鳴りました。そして、ええ、ある男性が、ええ、  
私には明らかに偽のスウェーデン訛りに聞こえたのですが、こう言いました…  
ええ、「もしもし、こちらはノーベル委員会です。私たちはあなたを…、あなたにお祝いを申し上げたいと思います。」と。そして、ええ、だから実は、完全には信じていませんでした。朝の6時半でしたから。実際にノーベル賞のウェブサイトに掲載される7時まで、完全には信じられませんでした。悪質ないたずらではないかと確信が持てませんでした。それで、それが、その電話を受けた経緯です。  
そして、実はどうやって彼らが私の携帯番号を知ったのか不思議に思っていました。  
すると、私たちのスウェーデン人の友人がその番号を持っていて、彼らに教えたのだと分かりました。

**（多くの責任をどのようにこなしていますか？）**

それは一部、自分が何を得意としているかという問題です。  
そして私は、何十年もの間に、自分がかなり得意なことと、そうでないことを学んだと思います。ですから私は、あなたは本当に私に大学運営の仕事をしてほしくないはずです。私はそれを完全に避けていますし、ええ、それで良いのです。  
一方で、私は非常に筆が速い。それがそういうことの一つだと分かったのですが、ええ、もしどうやってそれをやるのかと聞かれても、答えは見当もつかない、です。  
しかし私は非常に筆が速いので、おそらく他の多くの人にはできないようなやり方で、ええ、たくさんの執筆をこなすことができます。